

特 59

924

漢名將鑑

木延堂藏版

修訂
國編



明治十八年十二月十五日内務省贈付



夫兵法一博王也
 望初孫吳以後諸葛
 三國の乱は名を顕
 捕ら成へ兵學を
 此條は足利の
 大軍を賜
 内は在りて小思はる者
 國は早練より國名迄も昇
 人傑あり其殆ど和漢の
 豪傑は教くやあんと一老とありて幼童君の如き備ふ

英勇鏡

吉備大人
唐みて野
馬題の
詩を讀
ぬの
図



源頼朝

左馬頭義朝の三男あり
 十三才より源平の合戦
 に出陣あり 弥平兵工宗清
 は生とり死罪ある
 べきと池の
 禪尼は助け
 北條時政
 が軍と
 あり倫
 句をうけて
 義兵を起し



平家と西海へ
 ありわたり六十六ヶ
 國の追補使とあり

漢高祖
 沛
 初芒蕩山
 初項羽の強兵



韓信を得て
 竟み勝利とあり

漢の四百年の大業を用
 けり此人素衣を起り帝
 位に即ち竟み大業の人なり

英雄競

新田義貞

南朝無二の忠臣なり

北條高時と

一統の御代と

あし足利尊

氏反叛と

企てて志を

戦ひいとも

百勝忠義金鉄あり

運つてあく討死と遂げ

越前あり



伍子正日

呉王は仕て武勇は勝れ兵学

とよく忠義無類の人なり

呉王西施を溺れ改道と乱さ

子胥西施と殺す



おさんとして頭て

切られんとせれども少も恐

れど眼と操ぬき東門小掛け敵の来ると

見ると言て死せ

英雄競

源義経

源義経

源義朝の九男母ハ常磐
 河前あり幼きとき
 馬山に入り兵学
 道とろろざり
 父の仇平家
 とてさんと
 兄頼朝旗
 上り平家と追討
 四海は其名を真
 頼朝と不和とあり蝦夷
 落く義経明神と崇らる



韓信

此人家貧
 母を養
 ふとも成
 さきとも胸
 大器とてみ
 運の来ると謀
 或日市中は漁父の為
 その甲の服を潜り逃
 漢の高祖は挙げられ
 その衣功をうんぐ



孫 康

楠 正成



橘諸兄公の末あり勇猛
智謀兼備古今の名
將あり後醍醐天皇よ
仕足利
尊氏と赤坂
千破鉄の城より
小勢を以て大敵を勝所
々の軍をまうり
ことを用ひて敵を破る事
数まんび運拙して討死を
遂げし

孔明
臥竜と稱し兵法天文
地理ひとらして

○一世の軍功算へり古今秀れ
こととみつ



十六才のとき
玄德を登用
即ちあり
三國鼎足の勢ひ
を破り魏の大軍
を赤壁を破り其謀計あり
玄德死後幼主を守り中達を屢破り○



平知盛
清盛
三男
智勇一門
秀
文武兼備
の良將
新中納
言
昇
進
兄弟盛人の謀と

用ひ
都を追出さん
の軌頼義経
の為西
海に亡
びけ



張世傑
宗の亡びと
歎
き残兵を起し
元の大軍と戦ひ
千辛万苦
敵兵世傑の勇
をかみ降
らしめんと
せんと
と守り志こころ
變せよと
軍利あり
命を落
て竟ふ海に飛入り

源義經の臣

佐藤次信



檀の浦

兄弟の忠

△の戦ひは平家の強弓能登守範輕義

身範經の矢先は... 義經と云ふ... 射

韓紀信

△死をその忠義比類なき人傑あり



楚の項羽 大軍高祖を田んで逃る 紀信の途高祖の容顔み似て 衣服を着替身からり 逃るその身の敵陣ふりて

景清

平家の士あり英勇衆
み勝れ檀の浦の
戦ひは落

のび
主の仇を
報せん
頼朝を頼ふ奈
良大佛供養の折
僧ふのりく入込
忠み見頭いされ頼朝其義心と感



狩衣を穿み
景清を刺す忠
義とありけり

晋豫讓

其主君の仇を報んと軍中と去逃し山中
の潜し幽谷に匿れ千辛万苦して後漆を
呑み癩病の如くは
姿を變トてその
仇をうくすも
打果さむ敵將
空竊はるの義心
と知り衣を穿み
豫讓夫と刺す義
氣とありて死を
遂げり



児島高德



此人質知勇
備の長将
初め後醍醐天皇
と奪んとして事

あると琵琶法師
あり隠岐國
渡り忠義を買

南朝無二の人あり
戦功多し
後熊山を死す

漢武光趙

尤忠臣無二の人あり兵
法よも通し勇ハ衆

不越へて鋒をよまつみ
且敵兵此人を見
れ戦ハ崩
まけし後將軍
ま委任せりかゝる。

悦びし山谷

一々なき氣終は生涯を送りとなり

羽柴秀吉

尾張國大和郡の産なり
 て民間の人と成り
 川の家臣松下氏の
 僕とあり
 後又織田信長公へ
 仕へ智略且戦功あり
 治一三韓八道を討るびくを英名と外國は夷一古今稀あり名將あり



劉備玄德

漢の後裔ありて民
 同は落靴と高ひ業と
 胸不犬
 器を以て
 き関羽張飛と
 桃園は兄弟の義
 を結び黄巾
 の賊を討諸豪傑追々付
 従ひ孔明を大元帥とあり
 魏吳と鼎足の如く鋒を
 争ひ竟し蜀帝の位を昇り
 美勇あり



日野熊若丸



中納言資朝の子故ありて父君佐渡へ流

されけるを母のころを安せん

佐渡へつりくも本

間三郎對面をゆるさ

む故に本回と斬

ころ再び

嵯峨へ歸り

十三

あり

とを

漢趙即



趙即ハ幼きと父山入り
山賊の為

殺され

一さうみ豫て趙即ハ劍を

持偽る賊の手下とあり

透を窺ひ仇を討ち父の

墳墓へ首を手向けこそ孝心深壮あり

朝比奈義秀
和の義盛が三男
よか力飽迄強
く義盛北
条の暴政
を恨み和
田一統の



軍勢を以て北条を襲ふ義時
怒れて御所を隠れて

出立止を得ぬ
御所へ押寄せ
閉じし門ヲ義秀
怪力を顕し押破り
軍果し後回へおれぬ
唐へ渡りしともつ不

明治十八年九月廿日御届

編輯兼 大西庄之助
出版人 日本橋區松島町一番地

定價表

